

1920年代に文芸資料研究会が刊行した特異な
社会風俗の文献を集成。

精選社会風俗 資料集

全8巻
クレス出版 発行

紀田順一郎 監修・解説





刊行のいさば

紀田順一郎

最も需要がありながら、最も文献整備の行われていない領域——これが世相風俗史という分野である。衣食住全般から言語、歌謡、礼儀作法、化粧、遊戯、遊芸、娯楽、男女の風俗一般にいたるまで、およそ日常生活に密着した主題は政治経済史などの建前的な歴史に比して軽視されやすく、体系化の試みにも乏しいといえる。

この欠を補うものとして、明治後期から風俗史構築の試みが見られるが、当時の俊秀な研究者の手がけた業績は散発的で、体系化の流れを生み出すことはできなかった。講壇アカデミズムに採用されなかったことも、学問的な主流とはなり得なかった理由の一つに数えられる。

しかし、大正末期からの都市文化の発達、それに伴う消費文化の成立、民衆の解放感の自覚などにより、反権威主義的な風俗裏面史がもてはやされるようになる。その動きに応えたのが梅原北明（一八九九～一九四六）を中心とする研究者、出版人である。

梅原北明は早稲田大学英文科に在学中から、芸術に対する迷信打破を唱えて既存文芸に反旗をひるがえす先鋭な論客として注目されていたが、同大を中退後の一九二五年（大正一四）、金子洋文、村山知義らと雑誌『文芸市場』を発行、タイズム、プロレタリア文学に風俗史資料など、反権力的な主題をテーマに文学運動を起こしたことで知られる。この種の出版は、多くは法にふれるものであったため、幾多の筆禍を招いたが、北明は弾圧に屈せず、『変態資料』『グロテスク』などの雑誌を次々と創刊し、大正末期から昭和初期にかけてのエロ・グロ・ナンセンス文化をリードした。

これら北明の手がけた刊行物のうち、今日社会風俗世相史として評価されているのが、『変態十二史』『軟派十二考』その他の異色の史料シリーズである。当時の「変態」は現代の「異色」程度の意味であるが、研究者や好事家を動員し、まったく類書のない領域を発掘した手腕は、昭和初期の文化の可能性を探る上でも、再認識されなければなるまい。この文献的志向は『明治大正綺談珍聞大集成』などの社会風俗資料集の編纂に発展する。

本資料集は、これら北明の編纂物・著書の中核をなす、今日容易に見ることのできない書目を揃えて復元し、利用しやすい形として刊行するもので、初の試みといえる。まさに埋もれた貴重文献として、好事家的興味を越えた今日的な研究目的に資することができれば、刊行者としての喜び、これに尽きるものはない。

第1巻 変態十二史 (一)

- 変態社会史 (武藤直治著、大正十五年、第一巻)
- 変態芸術史 (村山知義著、大正十五年、第二巻)
- 変態見世物史 (藤沢衛彦著、昭和二年、第三巻)
- 変態人情史 (井東 憲著、大正十五年、第四巻)
- 変態広告史 (伊藤竹醉著、昭和二年、第五巻)
- 変態刑罰史 (沢田撫松著、大正十五年、第六巻)

第2巻 変態十二史 (二)

- 変態商売往来 (宮本 良著、昭和二年、第七巻)
- 変態仇討史 (梅原北明著、昭和二年、第八巻)
- 変態崇拜史 (斎藤昌三著、昭和二年、第九巻)
- 変態遊里史 (青山俊文二著、昭和二年、第十巻)
- 変態交婚史 (藤沢衛彦著、昭和二年、第十一巻)

第3巻 変態十二史 (三)

- 変態浴場史 (藤沢衛彦著、昭和二年、第十一巻)
- 変態伝説史 (藤沢衛彦著、大正十五年、第十二巻)
- 変態妙文集 (内藤弘蔵著、昭和二年、附録第一巻)
- 変態作家史 (井東 憲著、大正十五年、附録第二巻)
- 変態蒐癖志 (斎藤昌三著、昭和三年、附録第三巻)

第4巻 変態文献叢書 (一)

- 変態魔術考 (佐々木指月著、昭和三年、第一巻)
- 変態風俗資料 (文芸資料研究会編、昭和四年、第二巻)
- 変態性格者雑考 (中村古峽著、昭和三年、第三巻)
- 性的犯罪雑考 (松岡貞治著、昭和三年、第五巻)
- 会本雑考 (封醉小史著、昭和三年、第六巻)

第5巻 変態文献叢書 (二)

- 変態演劇雑考 (畑 耕一著、昭和三年、第八巻)
- 人類秘事考 (佐藤紅霞著、昭和四年、追加第一巻)
- 軟派珍書往来 (石川巖著、昭和三年、追加第二巻)
- 印度愛経文献考 (泉 芳環著、昭和三年、追加第三巻)

第6巻 軟派十二考

- 羅舞連多雑考 (池田文痴庵著、昭和三年、第一巻)
- 近世毒婦伝 (横瀬夜雨著、昭和三年、第二巻)
- 情死考 (小林隆之助著、昭和三年、第三巻)
- 男色考 (花房四郎著、昭和三年、第四巻)
- 性愛嫉妬考 (綿谷摩耶火著、昭和四年、第五巻)

第7巻 明治性的珍聞史 ほか

- 明治性的珍聞史 上 (梅原北明著、大正十五年)
- 明治性的珍聞史 中 (梅原北明著、昭和二年)
- 俗謡未摘花 (藤沢衛彦著、昭和四年)
- 変態懸想文 (福山福太郎著、昭和三年)

第8巻 日本性的風俗辞典

日本性的風俗辞典 (佐藤紅霞著、昭和四年)

第2巻 変態交婚史

第三節 獸姦の種相

獸姦の天倫に背反せる淫行として卑めらるるに至つた理由

獸姦の原義としての人間心理

異性に接して自然的満足を得ること困難なるもの

経済的事務による色情的要求の對象としての獸姦

消極的環境にあるもの

獸姦(Sodomit)は、天倫に背反せる淫行中、最も卑むべく、忌むべきものであるといふ考へから禁ぜられた最初は、人間を獸畜より一段上の動物だと信するに致つた事による。然し、さうした思想發達の後に、猶、文明人中に於て行はれた例證に乏しくない。

此場合に於ける獸姦の原義者は、その迷信にもとづけるものゝ外は、異性に接すること能はざる状態にある者、若くは變態性慾性の者に限られてゐる。殊に後者の淫行に屬するものが多い。

異性に接すること能はざる者即ち自然的満足を得ることの困難なる者には、経済的、環境的、局部異常の三つの場合がある。

経済的に恵まれざる者が、その色情的要求から、獸姦する場合、男子はむろん雌獸を犯し、女子は雄獸と戯むるゝもので、此場合、野外の家畜と、室内の家畜とが其對象とされて、そこに反自然的色慾満足が招來される。

環境的に獸を犯すものは、深淵に於けるもの、勤めの身などにて、進退の自由を束縛され、自然的満足を得る機会がない事から、その性本能の慾求は、獸姦に傾向する。されば、之は主として女子の雄獸に戯むるゝもので、犬猫の如き室内家畜が對象とされる。徳川幕府の奥女中などが、犬猫に陰部を舐めさしめた淫行も此傍系に屬する。

此系統に屬するも一つの場合に、牧童など、その環境の自然的容易なる事情より、その飼養の動物を犯

第4巻 変態性格者雑考

第二章 精神薄弱者に現はれる變態性格

第一節 精神薄弱の原因

精神薄弱の意義

精神薄弱の原因

(一)先天的原因

精神薄弱者とは、生來的に、または幼時の身心發育期に、ある原因が加はつて、腦髓の發育が停止し、またはその發育が遅徐に陥つたため、従つて精神作用の發達も亦阻止せられ、或ひはその發達遲滞に陥れるものであつて、一般にはまた低能者とも呼ばれてゐる。これは、主として知能の發育障礙が重要な徴候をなしてゐるからであるが、知能に障礙があれば、それに伴つて又感情にも、意志にも多少の缺損あることはいふまでもない。

精神薄弱の原因は、先天と後天との二に分けることが出来る。先天的の原因とは、概して遺傳に基くものであつて、中にも両親の酒精濫用に因ることが多い。その他、両親の腦病、神經病、精神病、または梅毒、結核等のために、既に生殖細胞そのものに損傷を受けてゐるもの、或ひは妊娠中に母體が急性の熱性病その他いづれの病氣に罹つて、ひどい衰弱に陥つたり、又は分娩時に激しい腦の外傷を受けて、それがため胎兒の腦髓の發育を阻碍されてゐるものである。又後天的の原因は、乳兒期或ひは幼兒期に、腦膜炎、腦水腫、腦腫瘍の如き腦髓の病氣に罹つたり、又は墜落その他で腦の外傷を受けたり、癲癇を煩つたり、また急性傳染病や強度の營養障礙を受けたことなどから、同じく腦髓の發育を阻碍されたものである。

第7巻 明治性的珍聞史

廁に髮切り



府下本郷三丁目一番地に住せる養物渡世鈴不米次郎の下婢きんと云る者本月十日夜九時過其妻なる惣靈隱へ至らんとし既に入らんとする時慄然とするや否や頭上の毛髮面上に散じ散髪となれりぎん大いに驚愕のあまり傍に住する愛智縣士族曲淵某の宅へ駈け込み喝と叫びしまゝ氣絶せり衆人其謂を知らざれば種々介抱して藥用なましめ漸く我に復るに及んで其顛末を尋ねるに有りし次第を語りけるにぞ直ちに廁の近傍を搜索せしかどかはれる景色も見へず唯彼の髻の達磨がへしとか云へる

明治七年三月二十七日
寫眞の説明
因果は廻々蒸汽車、應報は迅速新橋の電車所にて女房を殺せし男は氣の知れぬ麻布谷町邊にすむ吉九郎といふ者なるが活計に迫りて妻おかれを外國人の雇婢に出せしが同寮洋客の雇夫なる虎之介と密に通じてゐるときより憤怒に堪へず斯る舉動に及べども相手の姦夫を討せんじ其場をさらす吉九郎は刺腹つて死たりし愚痴の惑ひぞ怖るべきなり。轉々堂戲録(東京日々新聞千四十七號)

者依然として地上にわだかまるのみ是に於て始めて俗に云ふ髮切りなるを知り大に懼れて其後は婦女子等白晝と雖も此廁に入るものなきに至れり此事過日淺草金龍山内にも在り且一老人の話に拒る四五十年前にも此事ありて其頃一般女子の簪に小短冊をつけ一首の歌を書いたり其歌に「かみき

赤襟

(あかゑり)
二十歳未満の藝妓の異稱。この年頃の藝妓は、總て赤襟を着けてゐる所からいふ。

垢搔女

(あかきおんな)
風呂屋者といつた私娼、湯女の一稱である。「世界嬌艶情痴辞典」に曰く、「好色一代男」卷一、「ほんのうの垢かき、兵庫風呂屋者の事」の條に、この垢搔女の圖があつて、三人の垢搔女が、三人の男客の背を銘々に洗



ふ様が描いてある。「好色訓蒙圖彙」にも同様の繪が出てゐる。後に「垢すり女」と稱した。彼等は俗客の垢を搔く外賣笑を専としたのである。「筆拍子」に、「延寶の頃、大阪の市中にあかすり女のありたる風呂屋十四軒」と記してある。「賣笑婦異名集」に、「是等の「風呂屋者」が淫を賣りし事は、足利時代よりの風習にて、明治二十

赤貝

(あかがひ)
年頃まで其餘風繼續して行はれたり、云々」とある。佐渡あたりには今尚ほ此の遺風があるさうである」云々。

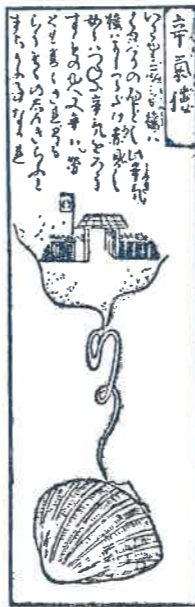
女陰の隠語。赤貝は辨總類の貝にて、長二寸餘、介殼表面淡褐色、肉は赤色である。赤貝を女陰の隠語となす事は「性的隠語集成」に「赤貝は其の形状黒褐色の介殼膨れ多くの鬚あり口に毛を生じ肉赤色なるにより、□□其形状鬚鬚として相酷似す。赤貝は又いがひ、貽貝」とも稱し、別名をにたり貝と言ふ。是れ女陰に似たればなり。云々」とあるに由つて領づけるであらう。然して此の赤貝といふ隠語は、専ら年増女の隠處を語頭に上ほす場合に使用されるのである。

(載所「男代一色好」西) なんなきかかあ

されば川柳にも
年増の汐干赤貝の水鏡
と詠まれて居る。一荷堂主人編「新作落し咄」に載つた「仇心」と題する小咄は明かに赤貝を以て女陰を諷刺して居る。即ち去る方より看を貰ひ夜の客のあてにとて其まゝ臺所に置きたるに、春の日永で暖かなるに退屈せしか、彼赤貝は蓋を明けて何やら如く、このもしき色を見せたるに側にある海老は、そろ／＼鬚を動かし、赤貝にさはれば赤貝は、すぐに蓋をして、「よい年をしておきんかいな。」川柳に又曰く、

赤貝をたはけくぢつて喰ひつかれ
と、これは探幽(其項参照)の常癖ある男子の失敗を詠んだものであつて、左の如く小咄の種にさへなつて居るさる方より赤貝を臺に積み、進物にきたりしを、下男

ひたとせりければ、小指をはさまれて大きに疼むゆえ、外科を呼びて見せけるが怪我の仔細を問はるれども、赤貝にくはれたとも得いはず、もち／＼する故外科もさし俯きうかゞひしが、男小聲にて、「赤貝には



赤貝(京傳作「新造圖彙」所載)

さまれし」といふ。外科心得すぎ、「まだ指で御仕合ぢや」といふた。

寛政三年板京傳戲作の黄表紙「むなさん用」に、「ある時京傳うか／＼と艸庵をたち出いづく共なく行けるが思はず善魂のかくれかへ來り人間のからだのうしやくをきく「それ人間のからだは天地の小さやうなものしやすなはち二ツの目は日月のでとく肉は土にひとしくほねは岩石のごとく血は水にて脈は水のさし引にひとしく毛や爪は艸木につくいきとひる尻は風のごとくなみだと小へんはあめにひとしくものいふは雷のはつするがごとくからだに生ずるのみしらみはとりけだもの生ずると同じどうりそれじやによつてまたぐらの谷あいにはまつだけもしやうじへその下のうみにはあかかきもうまるゝでないかそのうち心といふものは天地ぞうくはの神にひとしくこのものゝりやうけんしだひにてせいじんやほとけもうまれ又おにもてんぐもうまれるかてんか／＼と」あり。

又川柳に曰く、
うかれ女の赤貝つひに鮓と化し、
近松の戯曲「心中宵庚申」下に「三百戒五百戒も、約

精選社会風俗資料集 全8巻

紀田順一郎 監修・解説

- 第1巻 変態十二史 (一)
- 第2巻 変態十二史 (二)
- 第3巻 変態十二史 (三)
- 第4巻 変態文献叢書 (一)
- 第5巻 変態文献叢書 (二)
- 第6巻 軟派十二考
- 第7巻 明治性的珍聞史 ほか
- 第8巻 日本性的風俗辞典

A5判、A4判(第8巻) / 上製クロス装 平成18年9月末日刊行

揃定価90,000円(税別) ISBN4-87733-347-9(セット)

近代世相風俗誌集 全9巻

紀田順一郎 編・解説

- ① 東京風俗志 上中下巻 定価13,000円(税別) ISBN4-87733-303-7
- ② 明治初年の世相 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-304-5
- ③ 太政官時代 定価16,000円(税別) ISBN4-87733-305-3
- ④ 江戸と東京 風俗野史 定価12,000円(税別) ISBN4-87733-306-1
- ⑤ 明治時代の風俗 定価10,000円(税別) ISBN4-87733-307-X
- ⑥ 日本風俗史 定価 6,000円(税別) ISBN4-87733-308-8
- ⑦ 銀座百話、銀座・築地物語絵巻 定価11,500円(税別) ISBN4-87733-309-6
- ⑧ 明治詩話 定価 7,500円(税別) ISBN4-87733-310-X
- ⑨ 明治少年文化史話 定価 8,000円(税別) ISBN4-87733-311-8

揃定価95,000円(税別) ISBN4-87733-312-6(セット)


日本年表選集 全八巻

日置 英剛 編・解説

- 第一巻 泰平年表、和漢年契、日本金石年表 定価 9,500円(税別) ISBN4-87733-265-0
- 第二巻 日本年表、新撰東西年表、万国大年表 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-266-9
- 第三巻 古今人物年表、国史研究年表、歴史日鑑 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-267-7
- 第四巻 日本史籍年表 定価15,000円(税別) ISBN4-87733-268-5
- 第五巻 帝諡考、元号考 定価12,500円(税別) ISBN4-87733-269-3
- 第六巻 日本文化史年表 定価11,000円(税別) ISBN4-87733-270-7
- 第七巻 史籍年表、新撰年表、新撰洋学年表 定価13,500円(税別) ISBN4-87733-271-5
- 第八巻 日本百科年表 定価11,500円(税別) ISBN4-87733-272-3

揃定価95,000円(税別) ISBN4-87733-264-2(セット)

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
☎03-3808-1821 ☎03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

 株式会社クレス出版

●書店名